

資源の動向 「低位・減少」



図 横浜市漁協柴支所のマアナゴの漁業種類別漁獲量の年変化

本県の代表的な水揚げ地である横浜市漁協柴支所の漁業種類別漁獲量は1992年の248トン进行ピークに減少傾向が続き、近年では漁獲の主体は小型機船底びき網になっている。2020年以降はさらに減少し、2024年漁期も約17.8トンと低迷が続いていることから、動向は「低位・減少」と判断した。

対象漁業

主に東京湾

○あなご筒漁業

○小型機船底びき網漁業



生物学的特性

○分布: 北海道以南の各地

本県では沿岸の浅海の砂泥底

○移動: 漁獲サイズ(全長36cm)までの湾外への移動は少ない

○成長: 最低水温期に幼生で来遊後1年半で漁獲サイズ

○産卵場: 九州・パラオ海嶺

